

## 2026年2月1日（日）第二礼拝「比較しないで輝けよ」Iコリント3章4～9節

フィリップ・マクロウイの分析によると、現代人のストレスは三つあるということです。一つ目は比較ストレスです。他人と比較することです。二つ目は成果主義です。世の中は結果を重視しますが、成功か失敗かは主が決められることで、自分で決める必要がありません。三つ目は虚無主義です。主の約束を信じる時、希望に満ちますが、その信仰が揺らぐ時、虚無主義というストレスになります。では、これらのストレスに打ち勝つ方法は何でしょうか。

第一番目、主がおのおのに授けられた賜物があります。私たちは健康や財産や能力など、それぞれ主から与えられた賜物を持っています。賜物をもっていない人などいません。パウロは植える者であり、アポロは水を注ぐ者でした。また、それを刈り取る者もいます。しかし、成長させてくださるのは主です。主がすべてを成されます。ですから、私たちはその成果を気にすることはないのです。皆、大なり小なり、主から頂いた賜物を大切にし、それに従って行動し、神様に感謝を捧げましょう。その賜物ゆえに自分を誇ることなく、神様に栄光を返すなら、互いに比較することはなくなります。

第二番目は、それぞれの賜物に感謝し、互いに愛し合うことです。私たちの体は目、耳、鼻、口、手、足、目に見えない隠れた器官など、多くの器官を持っています。働きは違いますが、体は一つです。「…目が手に向かって、『私はあなたを必要としない』とすることはできないし、頭が足に向かって、『私はあなたを必要としない』とすることもできません。…からだの中で比較的弱いとみられる器官が、かえってなくてはならないものなのです。」（Iコリント12：21～22）脾臓は小さな見栄えのしない器官ですが、消化を助け、血糖を決めるインシュリンが出るなど、重要な働きをします。私たちは皆、家族であり、家の主人は神様です。大きな働きをする器官もあれば、小さな働きをする器官もあります。これらの器官が尊敬し合い、愛し合って行動するなら平和です。しかし、分裂や競争をするなら、痛みが伴い、病気になります。私たちは与えられた賜物を大切にしつつ、他の人たちを尊敬する心を持たなければいけません。賜物は人にとって負いやすく、その荷は軽く、良いものに見えます。それは苦ではなく、かえって楽しく感じられます。パウロにとって教会開拓は生きがいであり、喜びでした。パウロは宣教を通して多くの教会を建てました。私たちはただ楽しみながらイエス様の側を歩くだけで良いのです。そうするなら、主が成し遂げられます。

第三番目、賜物をもって輝くことです。それぞれ、他の人と比較せず、高慢にならず、与えられた賜物を用いて輝きましょう。すべては主が成されたことです。その主に栄光を返すなら、この世の基準によるストレスから解放されます。指紋は一人一人違います。川のほとりにある石ころでさえも、全部違った形をしています。ナンバーワンになる必要もないし、人と比較して劣等感を持つ必要もありません。自分にできる唯一のことがあります。私たちは主にあるオンリーワンなのです。それぞれの賜物を用いて輝き、最後の決勝点まで信仰のレースを走りぬくなら、主が「良い忠実なしもべだ。」と言ってください。アーメン！